

二島中学校だより 学力特集号

北九州市立二島中学校
校長 森 隆

今年も残り少なくなりました。保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。本校では期末考査も終わり、その結果に一喜一憂している生徒も少なくありません。結果も大切ですが、試験で間違ったところ、分からなかったところを授業や自宅でもう一度見直し、分かるようにしておくことが大切です。受験を控える 3 年生だけでなく、1・2 年生にとっても重要なことですので、ご指導の程、よろしく願いいたします。

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 28 年 4 月 19 日（火）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

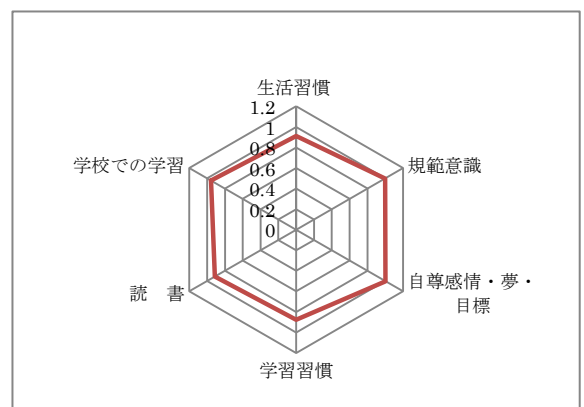
1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	学力の状況
国語 A	全体的に全国平均正答率を下回っているが、読むことや聞くことに関する問題で、全国との正答率の差が小さく、無回答の生徒の割合も少ない。書くことの問題に課題がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている
国語 B	全体的に全国平均正答率を下回っているが、読むことに関する問題で、全国との正答率の差が小さく、無回答の生徒の割合も少ない。書くことに関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている
数学 A	全体的に全国平均正答率を下回っている。数と式の領域では正答率が低く、無回答率が高かったが、図と形の領域では全国平均正答率を上回る問題もあったし、無回答率も低かった。	全国平均正答率との比較
		下回っている
数学 B	全体的に全国平均正答率を下回っている。問題形式が選択式の場合は選択肢がヒントとなり、無回答者がなく、全国平均正答率を上回る問題があった。	全国平均正答率との比較
		下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

- 学校のきまりを守っている等の規範意識を持っている生徒は全国と同じくらいいる。
- 将来の夢や目標をもち、将来人の役に立つ人間になりたいと思う生徒は全国よりも多くいる。
- 学習習慣については、望ましい学習習慣が身につけているかについては全国を下回っており、家庭学習の充実に課題がある。
- 授業の「めあて」や「振り返り」ができていない生徒は、全国を上回っているが、思考力・判断力・表現力を身につける学習には課題がある。



3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ◎ 指導力の向上を目指して、全教員は、年間1回授業を公開し、参観・協議する。
- ◎ 「めあて」と「まとめ」の提示の徹底。・生徒たちが、主体的に活動する場面を作り、話し合い活動・発表活動をする等して、言葉の力を高める。・評価規準を明確にして、生徒の状況を細かく確認する。
- ◎ 基礎・基本の定着・朝自習や帰りの会、放課後等、学力向上のための特設時間を設定し小テスト・コンクール等を行う。
- ◎ 書くことの習慣化・ノート指導を行い、質の高いノートを紹介したり、賞賛や励ましのコメントを記入したりする。・毎時間の授業のまとめや学校行事の後、必ず感想や学んだことを書いて整理する。

②家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 家庭学習の取組の強化
 - テスト前2週間前に配布される「試験範囲表」に、次のような学習のポイントを「二島中 家庭学習5か条」として記載し、意識して学習に取り組ませる。
 1. テスト迄に、できるようになっておくべきこと
 2. テスト迄に、仕上げておくべきである課題
 3. 今回の範囲のノート整理のポイント
 4. 今回の範囲の最も大事な内容
 5. 基本的な勉強の仕方
 - また、評価の基準等を各教科から示し、家庭学習として、具体的に何をすべきか分かりやすく提示する。
 - 「1週間の宿題記録シート」等を活用し、各教科から出される宿題の量や内容を生徒・教師共に把握、確認し宿題の提出の徹底を図る。
 - ・家庭学習チャレンジ・ハンドブックを活用し、家庭学習について指導する。また、家庭にも通信等を使って、理解と協力を得る。

③その他の取組

- ◎ テストや学力検査から見られる課題を全教員、保護者に周知し、理解と協力を得る。
- 学校通信、HP、PTA 理事会、家庭教育学級、学年懇談会等の中で、保護者に説明し、家庭との連携を図る。
- ◎ 本校生徒会作成の「ケータイ・スマホ使用の5か条」の周知を図り、生徒会活動の一貫として生活習慣の改善に取り組む。

※ 期末考査は終わりましたが、この点を踏まえて、先生と生徒、そして保護者が一体となって取り組みましょう。子どもの輝かしい未来のために！